

土砂災害から入身を守る

土砂災害の種類

1時間に50mm以上の大雨や、降り始めから24時間以内の雨量が100mmを超えるような場合、土砂災害の危険性が高くなります。

土石流

集中豪雨や長時間降り続く雨によって、土砂や石が水と一緒に一気に下流に流れ込む現象を土石流といいます。



前兆現象は？

- 異様な音、山鳴りがする
- 土臭いにおいがする
- 流れてくる水が急に濁り始める
- 雨が降り続くのに川の水位が下がる

崖崩れ

斜面が突然崩れ落ちる現象を崖崩れといいます。



前兆現象は？

- 斜面から水が流れ出てくる
- 斜面に亀裂が入る
- 小石が落下してくる
- 木の根が切れるなどの音がする

地滑り

地下水などの影響によって斜面が移動する現象を地滑りといいます。



前兆現象は？

- 井戸水などが濁る
- 斜面から水が流れ出てくる
- 木や電柱、建物が傾く

どんなところが危ない？

人に被害が生じる恐れのある区域は、**土砂災害警戒区域**と**土砂災害特別警戒区域**に指定されています。

土砂災害警戒区域

土砂災害により住民の生命・身体に危害が生じるおそれのある区域

土砂災害特別警戒区域

土砂災害により建物が破壊され、住民の生命・身体に大きな危害が生じるおそれのある区域

危険がせまってい
ないか確認！

福岡県総合防災情報の「土砂災害危険度情報」で、現在の土砂災害の危険性を確認することができます。



自宅などが該当するか「大牟田市防災ハザードマップ」等で確認しておきましょう。

詳しくは14ページへ



長雨にも要注意！

激しい雨が降らない場合でも、土砂災害は発生します。土砂災害は発生してからの避難はできません。長く雨が降り続いている場合や、夜間に激しい雨が予想されている場合は、**明るいうちに予防的に避難**することを検討しましょう。



静岡県熱海市の事例

令和3年7月3日、静岡県熱海市で大規模な土砂災害が発生しました。当時、1時間に30mm以上の激しい雨は降っていませんでしたが、断続的に降り続き、降り始めからの雨量が400mm近くに達していた事が発生原因の一つと考えられています。



大牟田市の事例

令和3年8月の大雨では、8月11日から19日まで雨が降り続けました。大雨警報（土砂災害）の発表、解除を繰り返し、14日には大雨特別警報（土砂災害）も発表されました。累計で1,000mmを超える雨量となり、市内の一部で土砂災害が発生しました。弱い雨でも数日降り続くときは、降り始めからの雨量が300mmを超えると土砂災害の危険性が高くなります。



高潮から入身を守る

高潮は、①気圧低下による海面の吸い上げ
②強風による吹き寄せの2つの大きな要因で起こります。

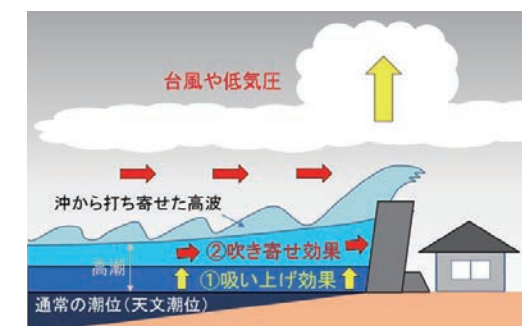
台風が起こす高波

①台風や低気圧による海面吸い上げ

気圧が1hPa（ヘクトパスカル）下がると、海面が約1cm上昇します。

②強風による吹き寄せ

台風による強い風で海水が海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が異常に上昇します。



大牟田は高潮の影響を受けやすい？

海水が堤防を越えると一気に浸水し、避難が難しくなるため、台風情報や高潮警報等に注意し、雨風が強くなる前に安全なところへ避難しましょう。

大牟田市の海岸沿いには干拓でできた地域があり、**満潮時の水面より低い場所**があります。**大潮の満潮**のときに高潮が発生すると、このような場所では浸水の被害が大きくなります。



昭和17年台風16号による高潮被害（市内）